

高橋千香 一般質問 原稿（全文）

- 1、島内に食事困窮者がいる。必要としている方への支援体制について
- 2、・大島の交通体系の課題の一つである北部地域～南部地域への交通確保。
・今後の交通体系検討はどう進めていくのか。
- 3、「島しょ・上質や宿泊施設誘致・整備に関して」公約とされている坂上町長の決意をお示しいただきたい。

今回は3点について質問させていただきます。

問) 大島島内でこの夏休み中、食事困窮者である就学時がいるという話に、子ども家庭支援センターへ聞き取りに行かせていただきました。

実際、夏休みで給食が無いこともあり、各家庭でも食費に大変苦慮しており、物価高の中、安い食材を見つけ工夫して食べさせており、今年は特に厳しかったと話す親御さんからの声は聴いておりましたが、この食事に関して、困窮している実態について、支援センターへお聞きしに行ったのははじめてであります。

聞き取りした結果、学校があるときは給食に頼り、もしかしたら、1日3食を当たり前食べられていない状況の子はいること。夏休みになり、そのような子供たちのために、子ども家庭支援センターとして、今年は特に厳しい状況が見て取れ、ストック食材もなくなり、緊急で民生委員会の会議で支援のお願いをしたり、職員などにお声掛けをし、自宅にあった食材を提供してくださる方、自費で購入して持ってきてくださる方々のご支援で何とかしているとお話にびっくりするばかりでありました。

今年の夏休みは何かしのいだものの、今後、学校が休みのたびにこのような切迫した状態が続く可能性もあるかもしれないと手立ての必要性を実感した次第であります。

事実、このような状況を議員として把握できていなかったことを反省し、今後は町としても、個人としても何か制度を整備し、住民も協力したい方には応援していただけるようなシステムはないものかと一般質問することにしたのであります。

都内でやられているフードバンクやフードパントリーが大島の実情に合っているかと考えると、当面は現在本当に食事に困っている方を把握している子ども家庭支援センターへ食料を集め、配布はお願いし（個人情報取り扱いもあることでしょう）みなさんにご支援していただきたいものの一覧表などを作ってください（できればこんなものが欲しい、ご遠慮いただきたいもの）集めるシステムを町として作り、住民にも投げかける・呼びかけることが望ましいかと思えます。

例えばですが「大島食堂」に現在取り組んでいただいている社協でもこの活動に加わっていただくのはいかがでしょうか。実際、社協の方からも「集めること」へのご協力の申し出もあるとお聞きしましたので、一般の方が持っていきやすい拠点にさせていただくとか、社協の協力員も持っていきやすい場所でもありますのでご検討いただきたいです。

町が中心となり、今後の計画を立てていただきたいのが今回の質問の趣旨であります。

福祉けんこう課長・町長のお考えをお聞かせください。

答) 福祉けんこう課長

住民課から福祉けんこう課へ異動し、2年目の夏季シーズンを迎えたある日、子ども家庭支援センター職員から、高橋議員がおっしゃるとおり食事困窮の子どもが、また、養育困難の家庭があるとの連絡を受けました。例として、精神疾患のため働けず、薬の影響などにより、朝も起きれず、体調不良のため、満足に食事の支度が出来ない、子どもの学校の準備ができないというようなご家庭で、学校も夏休みに入り、子どもと親への支援が早急に必要なケースであり、食事・医療・生活福祉の同時支援を実施し、現在改善されつつあります。

このようなケースを受け、今回、民生・児童委員に協力・支援をお願いし、ご家庭で余っている食品があったら、提供してほしいとの依頼や、さらに、大島社協より大島食堂で使用しなかった食品など、提供していただいた食品を子ども家庭支援センターでストックし、食事に困っている子どもの家庭へ支給するなどボランティアという協力体制のもと取り組みを始めたところです。

ケースによっては、単発の食事支援だけでは解決に至らず、精神医療や児童福祉、生活支援の制度を利用した継続的支援に結び付けていくことが、特に必要となり、役場関係各課の他、島内関係機関とも連携を密にして活動を進めております。

また、大島社協が中心となり取り組んでいる「大島食堂」についても、子どもの食の確保はもとより、子供から高齢者までどなたでも利用できる食堂として多世代の交流の場、子どもの居場所にもつながるため、一つの支援策として今後期待しているところです。

また、一覧表の作成ということですが、あくまでもボランティアによる自主的な協力が前提となるため、方法など今後検討させていただきたいと思えます。

いずれにしましても、子ども家庭支援センターを中心に、大島社協や関係機関の協力を得ながら、食事に困っている子供の家庭や、疾患などが原因による生活困窮家庭について、日々地域の情報に注視し、必要な支援の提供、または、制度に準じた各種福祉サービスにつなげるよう、行政として積極的に取り組んでまいりたいと思えます。

答) 町長

私も島内で食事に困窮されている実態がある事を知り、愕然としたところです。

日本では7人に一人の子どもが貧困状態にあるといわれております。

高橋議員が言われた子どもの食事の困窮については、決して他人事ではなく、我々一人ひとりに影響する自分事であると認識する必要があると思えます。

また、地域の皆様が、地域の子どもを見守り、地域で育てる社会を形成出来ればとの思いもあります。町としては、福祉けんこう課長が答弁したとおり子ども家庭支援センターが中心となり、子どもや親への必要な支援、福祉サービスの提供を行い、声に出せない方を見逃さず、必要な支援が行き届くよう関係機関との連携の強化に努めてまいりたいと思えます。

2つ目の質問に移ります。

問) 交通体系の課題については町として住民アンケートも取りましたし、調査もしてきて進めていることは理解してきたつもりです。住民の方に方々にもそのように説明してまいりました。

そのうえで、今後の方向性の中に今回一般質問する「南部～北部」の夜の交通手段の確保をしっかりと入れていただけないかの提案であります。

今年の夏休み中、観光のお客様も大島に多く来ていただきました。特に南部地域のゲストハウスや宿泊施設・飲食店の方も含め、北部の飲食店の方からも、是非、夜1往復で、まずは金土日からでも構わないので、バスの運行をお願いできないだろうかとの声が上がってきました。

予約制で人数によってはバスでなくてもタクシーであっても検討ありだと思えます。

飲食店の多く集まる中部・北部地域より、午後9時台（飲食店の閉店時間）に南部に向かって1往復であります。

南部地域への交通の足は北部地域も含めた全島あげての経済活動への支援にもなると思われます。その件に対してのお考えをおきかせいただき、さらに、今後「交通体系の課題」について町はどのようなスケジュールで進め、方向性を決めていくのか。実施時期についても、いつ頃を目標にしているのか。

この機会にぜひお答えいただき、住民の方へ途中経過・報告をお願いしたいと思っています。町長・政策推進課長のご答弁をお願いいたします。

答) 政策推進課長

高橋議員の質問のうち、私からは南部地域宿泊者のための夜間バス運行のご提案に対しての考えと、交通体系の課題に関するスケジュールと方向性を問う、のご質問にお答えします。

まずは、夜間バス運行のご提案をいただきましてありがとうございます。このことについて、私、状況を把握していないため、この後にでも、ぜひ詳しい話を聞かせてください。対応の是非につきましては、詳しい内容を確認してからとなりますが、交通計画に取り入れて対応を検討していくべきなのか、それとも交通計画とは別に、もっと迅速な対応が必要なのかも含めて、どのように問題を解消していくか今後の対応を判断したいと思います。

現在大島町において、交通体系の課題解決または改善のため、地域公共交通計画の策定に取り組んでいることは議員もご承知のとおりですが、計画策定にあたり重要視するものは、実際の需要です。このニーズを踏まえて、地域公共交通活性化協議会では、課題解決の方向性を検討しており、現在、路線バスダイヤの見直しをはじめ、交通不便地域の対応や福祉的車両運行の統合による効率化などを検討しております。今後のスケジュールについては、来年6月の交通計画の認定に向けて、あと数回協議会を開催し、12月ごろに計画素案を提示、1月ごろにパブリックコメントを実施、年度内に交通計画案を策定する予定です。なお、住民向けの途中経過・報告については、協議会の開催状況と検討内容を町公式ホームページに

掲載しておりますので、そちらをご覧くださいと思います。

答) 町長

政策推進課長の答弁通りですが、補足いたします。現在、大島町地域公共交通活性化協議会において検討中であり、特に交通不便地区への対応や福祉車両について等その結果を待ちたいと思います。

夜間バス運行について、観光客を含めたニーズの確認も重要であり、対策・計画を決めていきたいと思います。

3つ目の質問であります。

問) 三辻前町長が、本年3月議会で都の予算説明の中で大島に当てはまるものとして私は聞いておりましたが「島しょ・上質な宿泊施設誘致・整備」に関してであります。私自身この事業に大変興味があり、大島が新たな観光地として進んでいくために必要な、いえ絶好の機会が来たのではないかと心躍る思いがいたしました。

この事は坂上町長も公約に挙げられておりますし、前回の議会の際、関野議員からも質問があった際に、基本構想に盛り込んでいくとのご回答もしていたように思います。

他の島でなくここ大島で実現し、島の将来を大きくかじ取りしていく坂上町長に都も予算編成も進める時期もあるでしょうから、9月議会で、大島がやっていくと、決意表明をしていただきたく、今議会に質問項目として入れさせてもらいました。

坂上町長のお考えをお聞かせいただければと思います。

答) 町長

観光客の皆さまにとっては、多様性、様々な宿泊施設があることが、観光客誘致の大きな要素だと思います。インバウンド観光や人口減少時代に持続可能な新しい観光を推進していくことが必要と考えます。

これからは、町単独や民間単独だけでなく、官民連携したいろいろ課題を解決していくことも大事ではないでしょうか。

大島の自然環境を活かし、再生エネルギーを活用した、上質な宿泊施設を官民共同で立ち上げたいと思います。都内から一番近い島で、しかもこの大自然、文化、風土、歴史、という素材を持った大島を一押ししてくれている著名人もいらっしゃいます。

まだ、具体的な内容・詳細については発表できる段階ではありませんが、議会の皆さまのご協力がどうしても必要です。その時はよろしく願いいたします。